

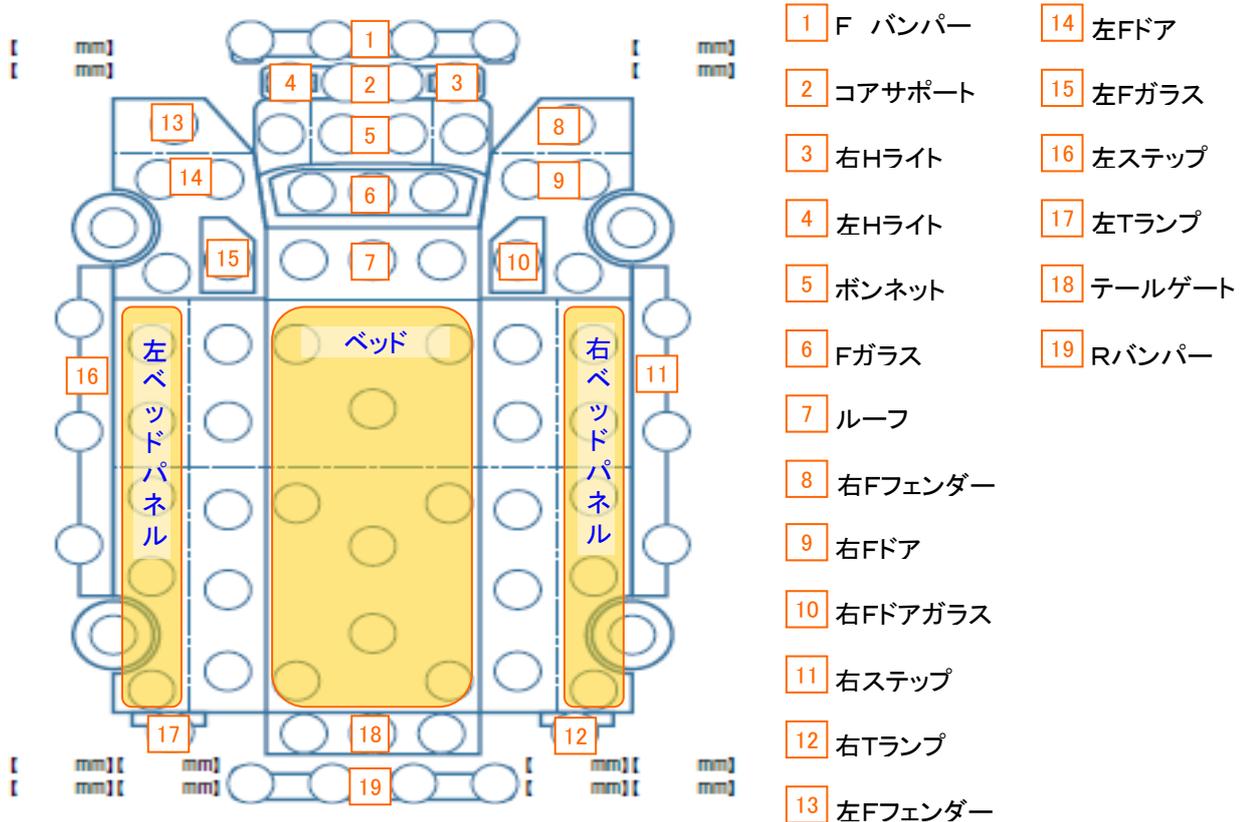
# 店舗在庫出品車両 検査マニュアル(トラック・バス)

## はじめに

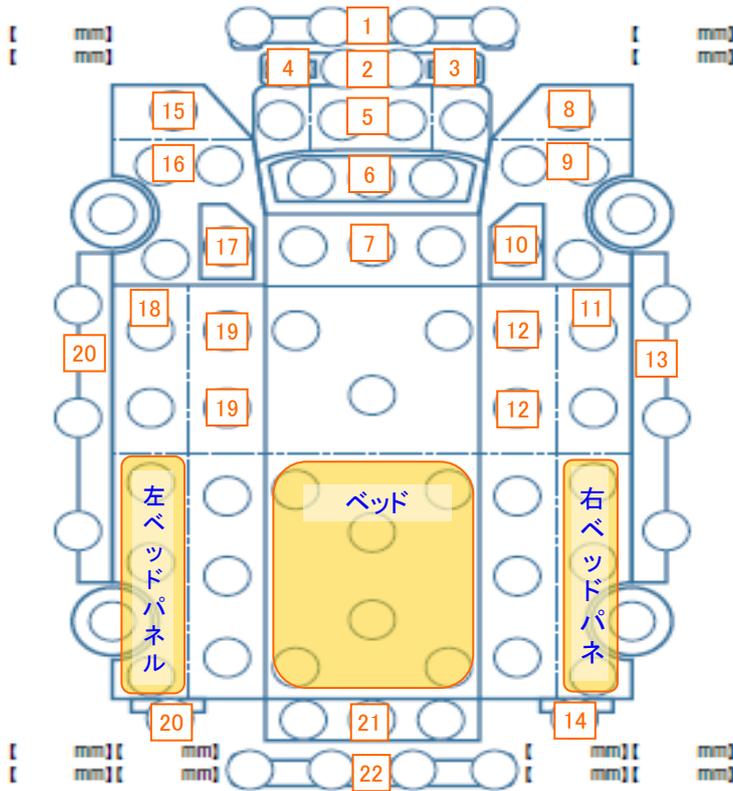
1. 出品者は、出品車両の仕様、品質、不具合、欠陥の程度等車両の状態を誠実・正確に申告しなければなりません。また、申告内容につきましては出品者が全責任を負うものとし、当社の裁定に従わなければなりません。
2. クレーム等が発生した場合の解決にあたっては、出品者、落札者双方とも店舗在庫規約及びアライAA規約に基づき、前向きな理解と協力によることを第一とします。

## 展開図部位呼称(トラック・バス)

☆ピックアップ形状(2ドア) ※荷台部分の扉が開かないタイプ

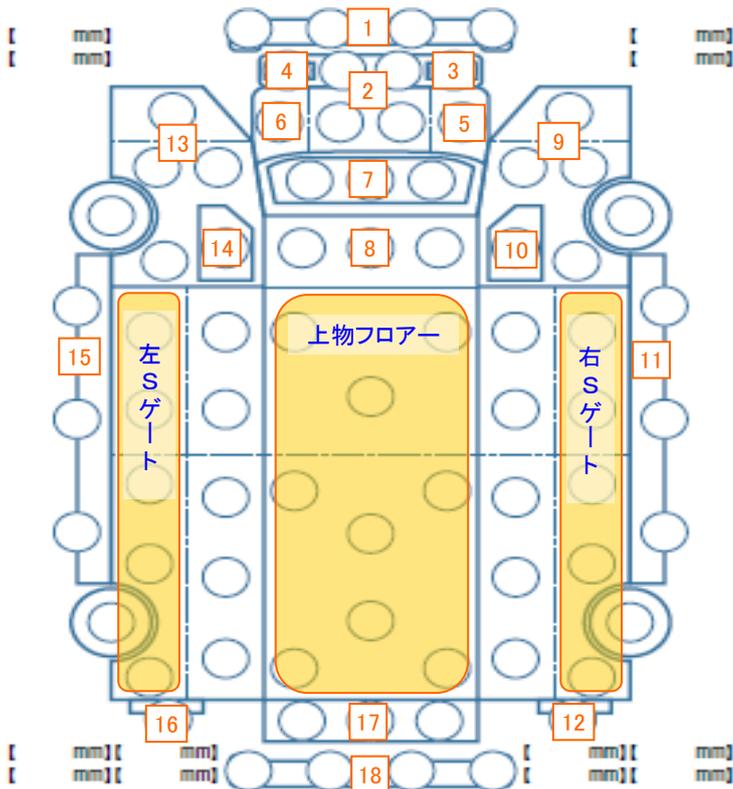


☆ピックアップ形状(4ドア) ※荷台部分の扉が開かないタイプ



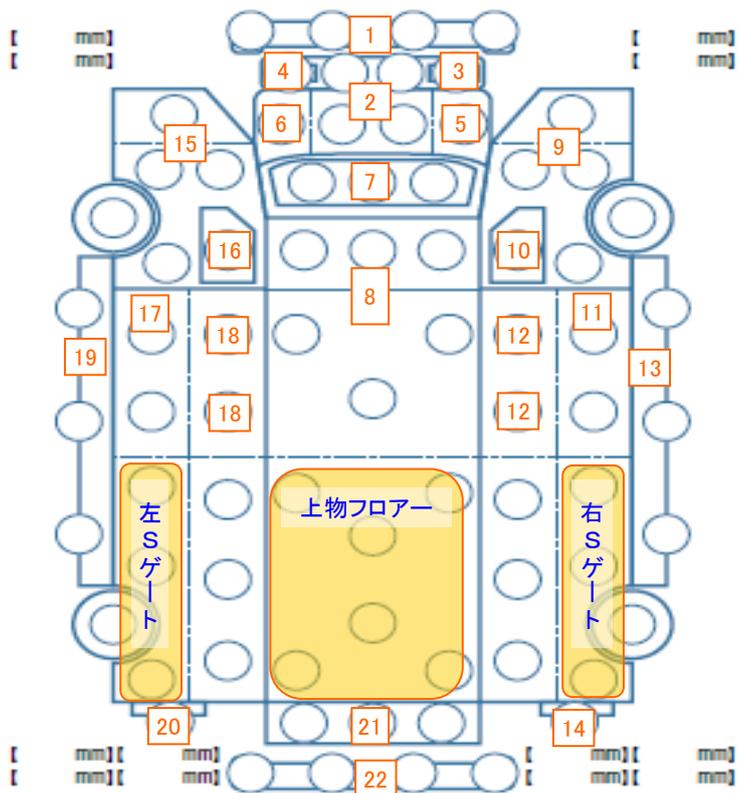
- 1 F バンパー
- 2 コアサポート
- 3 右Hライト
- 4 左Hライト
- 5 ボンネット
- 6 Fガラス
- 7 ルーフ
- 8 右Fフェンダー
- 9 右FDア
- 10 右FDアガラス
- 11 右RDア
- 12 右RDアガラス
- 13 右ステップ
- 14 右Tランプ
- 15 左Fフェンダー
- 16 左FDア
- 17 左FDアガラス
- 18 左RDア
- 19 左RDアガラス
- 20 左ステップ
- 21 テールゲート
- 22 Rバンパー

☆軽トラックを含む平ボディートラック形状



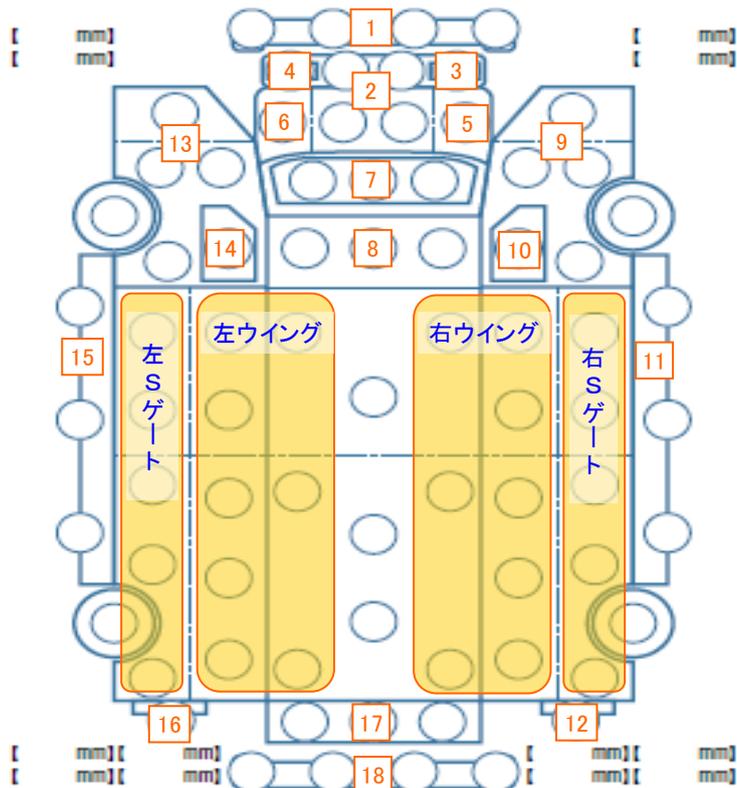
- 1 F バンパー
- 2 F パネル
- 3 右Hライト
- 4 左Hライト
- 5 右コーナーパネル
- 6 左コーナーパネル
- 7 F ガラス
- 8 F ルーフ
- 9 右FDア
- 10 右FDアガラス
- 11 右ステップ
- 12 右Tランプ
- 13 左ドア
- 14 左ドアガラス
- 15 左ステップ
- 16 左Tランプ
- 17 テールゲート
- 18 Rバンパー

☆ダブルキャブ形状(4ドア)



- |            |            |
|------------|------------|
| 1 F バンパー   | 12 右Rドアガラス |
| 2 Fパネル     | 13 右ステップ   |
| 3 右Hライト    | 14 右Tランプ   |
| 4 左Hライト    | 15 左Fドア    |
| 5 右コーナーパネル | 16 左Fドアガラス |
| 6 左コーナーパネル | 17 左Rドア    |
| 7 Fガラス     | 18 左Rドアガラス |
| 8 ルーフ      | 19 左ステップ   |
| 9 右Fドア     | 20 左Tランプ   |
| 10 右Fドアガラス | 21 テールゲート  |
| 11 右Rドア    | 22 Rバンパー   |

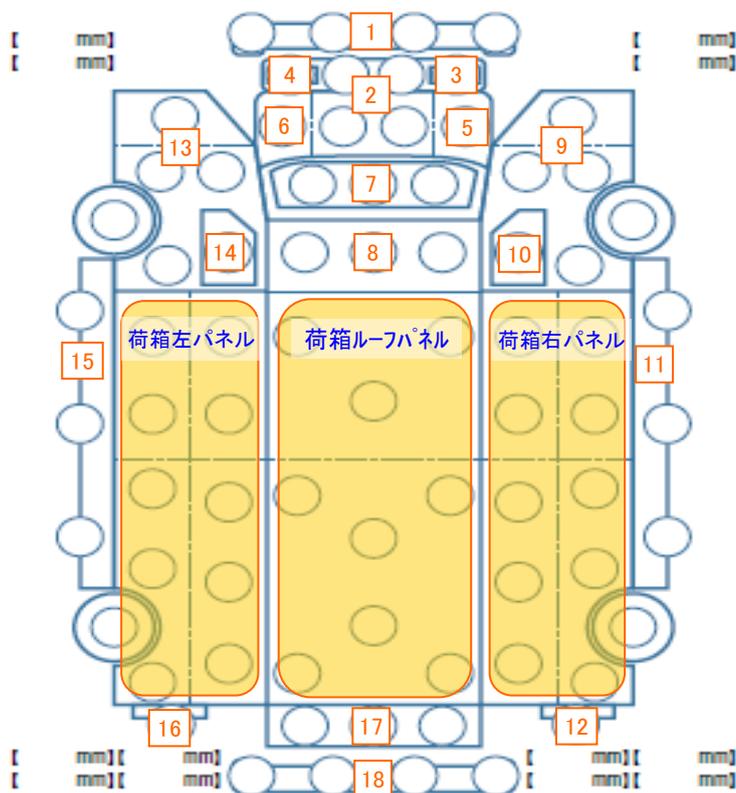
☆ウイングタイプのトラック形状



- |            |           |
|------------|-----------|
| 1 F バンパー   | 11 右ステップ  |
| 2 F パネル    | 12 右Tランプ  |
| 3 右Hライト    | 13 左ドア    |
| 4 左Hライト    | 14 左ドアガラス |
| 5 右コーナーパネル | 15 左ステップ  |
| 6 左コーナーパネル | 16 左Tランプ  |
| 7 F ガラス    | 17 テールゲート |
| 8 F ルーフ    |           |
| 9 右Fドア     |           |
| 10 右Fドアガラス | 18 Rバンパー  |

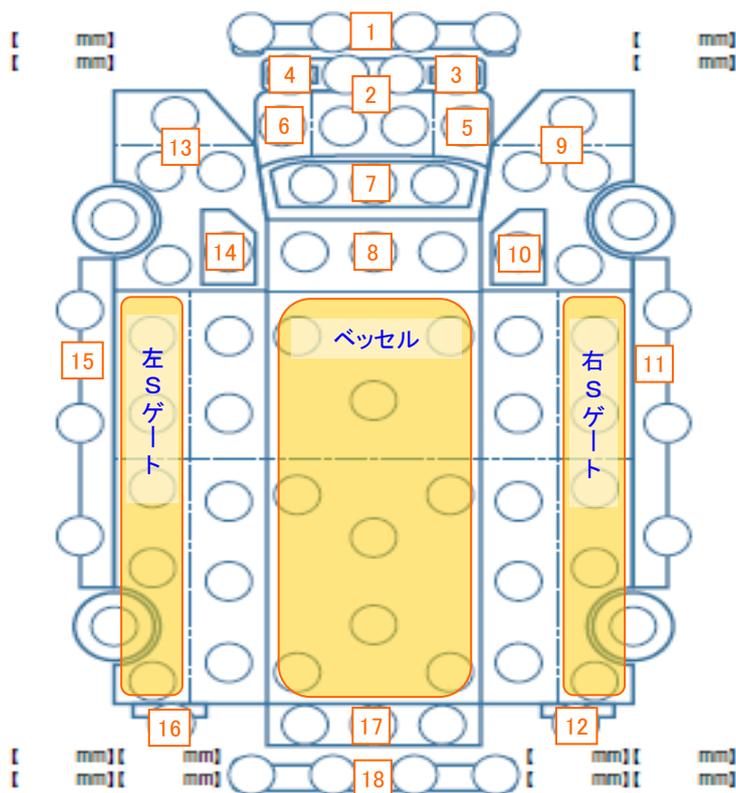
※現車に取付けられたドアの開き方により指定形状ドアを記載する

☆バンタイプのトラック形状



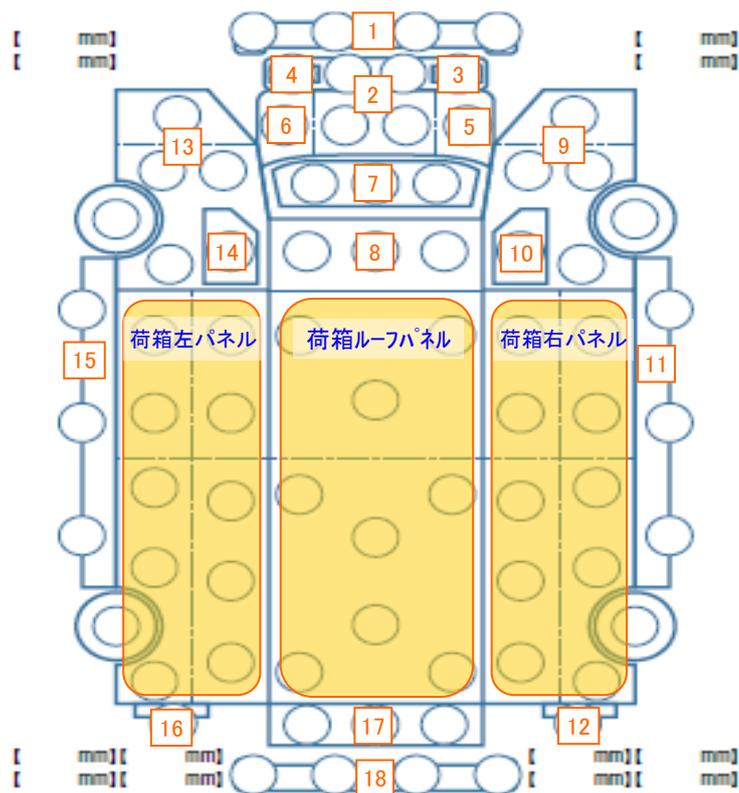
- |            |                                |
|------------|--------------------------------|
| 1 F バンパー   | 11 右ステップ                       |
| 2 F パネル    | 12 右Tランプ                       |
| 3 右Hライト    | 13 左ドア                         |
| 4 左Hライト    | 14 左ドアガラス                      |
| 5 右コーナーパネル | 15 左ステップ                       |
| 6 左コーナーパネル | 16 左Tランプ                       |
| 7 F ガラス    | 17 テールゲート                      |
| 8 F ルーフ    | ※現車に取付けられたドアの開き方により指定形状ドアを記載する |
| 9 右FDア     |                                |
| 10 右FDアガラス | 18 Rバンパー                       |

☆ダンプ形状



- |            |           |
|------------|-----------|
| 1 F バンパー   | 11 右ステップ  |
| 2 F パネル    | 12 右Tランプ  |
| 3 右Hライト    | 13 左ドア    |
| 4 左Hライト    | 14 左ドアガラス |
| 5 右コーナーパネル | 15 左ステップ  |
| 6 左コーナーパネル | 16 左Tランプ  |
| 7 F ガラス    | 17 テールゲート |
| 8 F ルーフ    | 18 Rバンパー  |
| 9 右FDア     |           |
| 10 右FDアガラス |           |

☆その他 特殊車両



- |            |                                |
|------------|--------------------------------|
| 1 F バンパー   | 11 右ステップ                       |
| 2 F パネル    | 12 右Tランプ                       |
| 3 右Hライト    | 13 左ドア                         |
| 4 左Hライト    | 14 左ドアガラス                      |
| 5 右コーナーパネル | 15 左ステップ                       |
| 6 左コーナーパネル | 16 左Tランプ                       |
| 7 F ガラス    | 17 テールゲート                      |
| 8 F ルーフ    | ※現車に取付けられたドアの開き方により指定形状ドアを記載する |
| 9 右Fドア     | ※車両により記載対象外となる場合もある            |
| 10 右Fドアガラス | 18 Rバンパー                       |

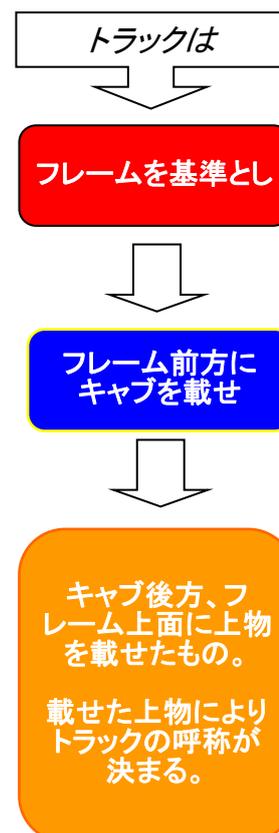
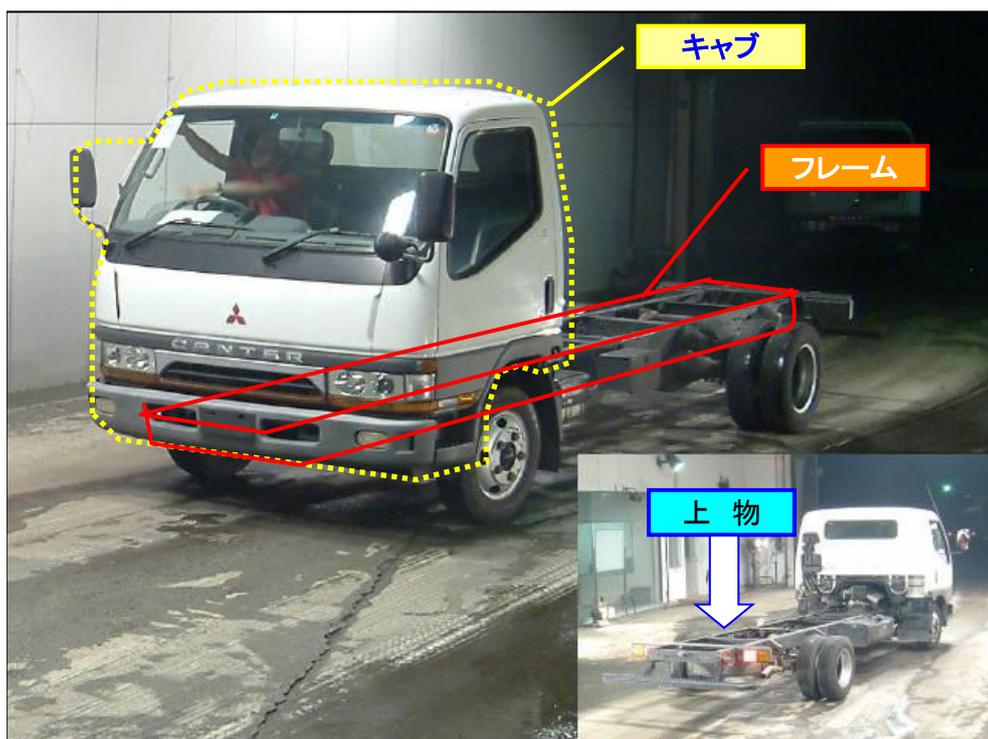
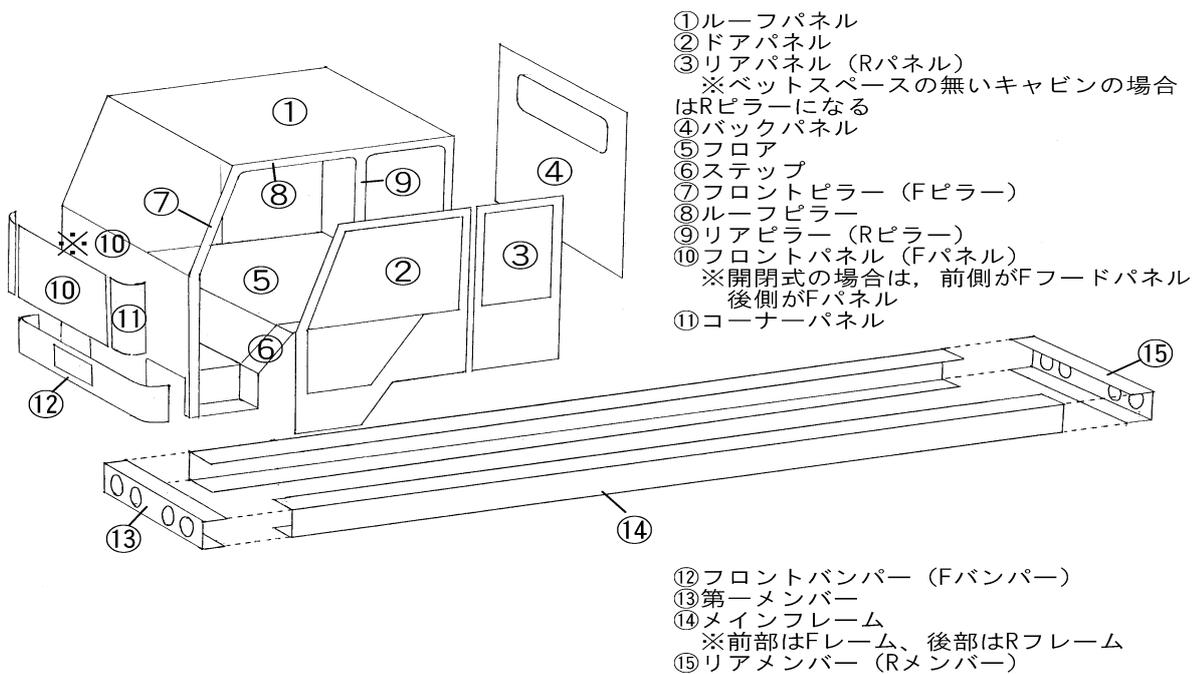
## ダメージ記号及びダメージポイント組合せによる程度、範囲解説

現車をよく確認し、ダメージがある箇所については下記の瑕疵記号を入力して下さい。  
 同じ箇所に異なる瑕疵が複数ある場合は、目立つものや程度の悪い方を優先して下さい。

瑕疵	記号	範囲、程度
線傷	A1	ゴルフボール大程度
	A2	手のひら範囲内（A1程度が複数ある場合）
	A3	サッカーボール大程度（A2程度が複数ある場合）
	A大	「3」を超える場合
	A多	複数箇所に及ぶ場合
凹み・窪み	U1	ゴルフボール大程度の凹み・窪み
	U2	テニスボール大程度の目立つ凹み・窪み
	U3	サッカーボール大程度の大きな凹み・窪み
	U大	「3」を超える場合
	U多	複数個所に及ぶ場合
他の瑕疵を伴う凹み	B1	ゴルフボール大程度
	B2	手のひら範囲内（B1程度が複数ある場合）
	B3	サッカーボール大程度（B2程度が複数ある場合）
	B大	「3」を超える場合
	B多	複数個所に及ぶ場合
錆	S1	ゴルフボール大程度の錆
	S2	テニスボール大程度の目立つへ錆
	S3	サッカーボール大程度の大きな錆
	S大	「3」を超える場合
	S多	複数個所に及ぶ場合
腐食	C1	500円玉程度の腐食
	C2	テニスボール大程度の腐食
	C3	サッカーボール大程度の腐食
	C大	「3」を超える場合
	C多	複数個所に及ぶ場合
切れ	T1	ゴルフボール大程度の切れ
	T2	テニスボール大程度の目立つ切れ
	T3	サッカーボール大程度の大きな切れ
	T大	「3」を超える場合
	T多	複数個所に及ぶ場合
割れ	D1	500円玉程度の割れ
	D2	テニスボール大程度の割れ
	D3	サッカーボール大程度の割れ
	D大	「3」を超える場合
	D多	複数個所に及ぶ場合
ペイント	P1	ゴルフボール大程度
	P2	手のひら範囲内（P1程度が複数ある場合）
	P3	サッカーボール大程度（P2程度が複数ある場合）
	P多	複数個所に及ぶ場合
補修跡・塗装跡	W1	すかして見て確認できる補修跡・塗装跡、補修波小・塗装波小
	W2	容易に確認できる補修跡・塗装跡、補修波中・塗装波中
	W3	全体的で再加修の必要な補修跡・塗装跡
変色・色褪せ	H1	対象部位全体の3分の1程度範囲
	H2	対象部位全体の3分の2程度範囲
	H3	対象部位全体に及ぶ場合
塗装剥げ	F1	対象部位全体の3分の1程度範囲
	F2	対象部位全体の3分の2程度範囲
	F3	対象部位全体に及ぶ場合
ずれ	L	
押され	O	
要交換	X1	部分的交換要する（分割タイプで一部のみ）
	X2	部分的交換要する（分割タイプで両サイド）
	X3	要交換（ヘコミ大、10cm以上の亀裂等）
交換済み	XX	

# 出品車両 検査について

## トラックの名称・基本構成



## 1.キャブ関係のチェック

### (1) 運転席に乗り込み室内をチェックする



- ・室内の状態
- ・各電気系のチェック
- ・シフトの位置及び注1)シフト段数等の確認

#### 注1)シフト段数について⇒



【写真1】

左【写真1】中、黄色く○で囲む部分に「ハイ/ロー」と呼ばれるギアの切替えを行う装置が付きした車両がある。この場合、シフトの段数は通常の×2倍となるので注意が必要。また、このような装置が付きした車両を出品する時は、出品票シフトの位置を該当より選んで○印で囲み、段数を□枠内に数字で記載すると共に[ HI・LO ]枠を○印で囲み記載するものとします。

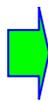
シフト	インパネ	フロア	トクS	
	コラム	AT	HI・LO	7

#### 注2)タコグラフメーターについて

積算距離計(オドメーター)とタコグラフメーターが一体式となったメーターが取付けられている場合には以下に記載する内容に注意をすること。

- A: 基本、タコグラフメーターは社外メーターと同様。  
 B: 大型車両(車両総重量が8t以上)については、標準装備となる。

#### 1.タコグラフメーターを開き下記内容を必ず確認すること。



【写真2】



【写真3】

#### 確認手順

- ① メーターに付随する専用キーを使い写真2の様にメーターを開く
- ② メーターを開き、写真3の黄色い口で囲む部分、メーターの製造年月を確認
- ③ 車両の車検証に記載された初度登録年月とメーター本体の製造年月を照らし合わせ、ズレが無いことを確認する。

### 車両総重量が8t以上のトラックの場合

車検証で車両の初度登録年月とタコグラフメーターの製造年月を確認する

- ◎: 双方ともに年月が一致(ズレ無)の場合 ⇒ 実走行
- ×: 車両の初度登録年月よりタコグラフメーターの製造年月が新しい場合 ⇒ メーター改ざん
- △: 車両の登録年月よりタコグラフメーターの製造年月が古い場合 ⇒ 基本⇒実走行とみなす

↓  
出品店の申告により、メーター改ざん、走行不明でも可能である。

### 車両総重量が8t未満のトラックの場合

本来であれば標準装備でない為メーター交換となるが、タコグラフメーターについては基本新車時に装着したとみなし、車両総重量8t以上の大型車両と同様扱いとします。

車検証で車両の初度登録年月とタコグラフメーターの製造年月を確認する

- ◎: 双方ともに年月が一致(ズレ無)の場合 ⇒ 実走行
- ×: 車両の初度登録年月よりタコグラフメーターの製造年月が新しい場合 ⇒ メーター改ざん
- △: 車両の登録年月よりタコグラフメーターの製造年月が古い場合 ⇒ 基本⇒実走行とみなす

↓  
出品店の申告により、メーター改ざん、走行不明でも可能である。

## 2. タコグラフメーター装置車両に於ける出品票『走行距離数記載枠』の記載方法

タコグラフメーターを装着した車両については、車両総重量が8t以上、8t未満に係わらず、『走行距離数記載枠』の下位置にある『タコグラフ年式』記載枠にタコグラフメーターの製造年月を記入しなければなりません。

*車#	走行	Km
□	□□□□□□□□	
走行に関する補足事項		
タコグラフ年式		
年 月		

### 注3) エアーを使用する車両について⇒

エアブレーキ装着車両等、エアを使用する車両は、漏れ等を確認する必要があります。



【写真4】

#### 確認方法

- ① 車両のエンジンを始動し、左写真4の黄色で囲むメーター内のゲージを上げる(エアをタンクに溜める)。
- ② エアが溜まったらエンジンを停止し、メーターのゲージが下がらないことを確認する。
- ③ ゲージが下がる様であればエア洩れの可能性が強い。

## (2) キャブの外装関係をチェックする

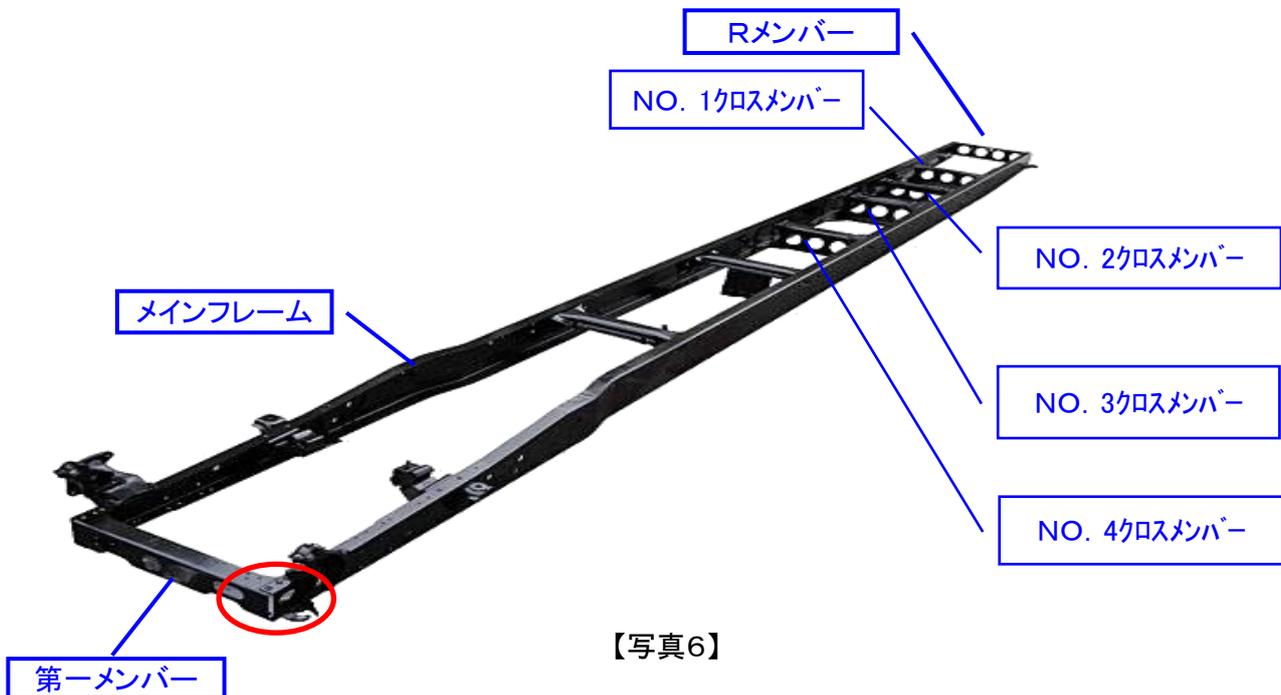


【写真5】

キャブのチェックについては、乗用車同様の検査基準が適用となります。また、外装関係をチェックする場合で、【写真5】にある様にボンネットが開くタイプの車両では、ボンネットを開き隅々まで細かくチェックする必要があります。

## 2. フレーム関係について

1. 殆んど車両の場合、下【写真5】にあるよう、梯子形状(ラダー)のフレームを使用している。



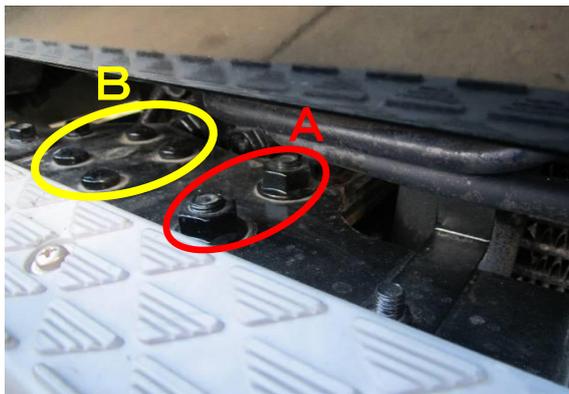
【写真6】

## (1) 第一メンバーについて

### 注) 第一メンバーの交換について

上【写真6】の赤丸で囲んだ部分がフレームと第一メンバーとの接合部分となる。通常この部分の接合はある一部車種を除き大半の車両がリベット留めで接合されています。この為、この接合部分がボルト留めなどになっている場合には、交換の可能性が非常に強いので特に注意が必要です。

※最近の車両では、リベットに代わりボルト留めタイプの車両もでてきています。

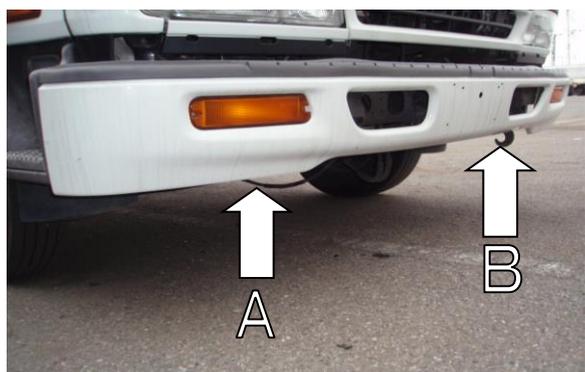


【写真7】

左【写真7】を参照

写真7、赤○Aが第一メンバーを留めているボルトである。交換となるとボルトであれば交換等、判断つけ難いので特に注意が必要。

交換等の判断については、ボルト本体にキズ等がある場合、また、写真中黄色○印部分（第一メンバーを固定するためのブラケット）に損傷等、また、リベットの打ち換え跡等があるので判断基準の一部となる。



【写真8】

実際にはバンパー、キャブ等がある為、左【写真8】A・B位置を真下から見上げるように確認を行う。



真下から見た第一メンバー

## (2) メインフレームについて

- ①メインフレームをチェックする際、特に注意が必要とされるのが**錆、腐食**である。メインフレームをチェックする際には、フレームの表側は勿論、裏側まで注意をしながら確認することが重要である。
- ②重量物を持ち上げたり、運んだりする車両では、支点となる部分に亀裂等が入り易いので注意深くチェックをする必要がある。



参考画像【フレームの亀裂】

- ③左右のメインフレームを繋ぐクロスメンバー、ガセットについてもメインフレーム同様となります。



腐食によるガセットの亀裂



腐食によるガセットの亀裂

### ③ Rメンバー関係について



- ①車両後方よりRメンバーの状態をチェックする。
- ②Rバンパーの曲がり、損傷が大きな車両の場合、その影響がRメンバーに波及し損傷する場合がある。

※Rバンパーの取付けブラケットは、主にメインフレームに取り付くため、バンパーの損傷によりメインフレームのブラケット取付け部分に損傷が出ている場合が多いので注意が必要である。

その他、NO. 1～のクロスメンバーについても、メインフレームのチェック同様、車両の上物との隙間や車両最後方部（Rクロスメンバー）ぶより前方方向に向け確認を行う

### メインフレームとその他、ネタ関係



### 3.上物関係について

#### (1) メインフレームに対する上物の取付け

メインフレームに対し、上物が正しく、しっかりと固定（取付け）がされているかを確認する事が重要。

メインフレームとタテネタの取付け ⇒

①Uボルトとによる取付けの場合⇒

片側2ヶ所以上でかつ、左右4ヶ所以上必要

②アングルグリップによる取付けの場合

片側2ヶ所以上でかつ、左右4ヶ所以上必要



## (2) 取付け不良の事例



## 4.その他

### (1) クレーン付車両

主要部位の名称を理解し、その部位に不具合が無いチェックする。



フック

- ① 荷物を吊り上げる為の部位
- ② 吊り上げトン数は何トンか？
- ③ フックワイヤーは曲がってクセがついていたり、切れたりしていないかを確認する。



ブーム

- ① 伸縮し、段数が増える程高く荷物を吊り上げられる
- ② 段数がまちまちなので、実際にブームを伸ばしチェックする。  
※その際、ブームに亀裂、曲り等の損傷の有無も確認する。



ポスト

- ① クレーンの支柱に値する部位
- ② 吊り上げ方法が悪く、曲がっている場合があるので注意  
※ブームを上下させる為のホイストシリンダあり、オイル洩れの場合があるので確認必要です。



アウトリガー



ロングジャッキ

- ① 荷物を吊り上げる際に支えとなる部位。
- ② 左右の接地場所が違う『差し替え式』もある。
- ③ 実際に張りだし、昇降させ動作確認を行い、オイル洩れ、曲り等の確認を行う。

※クレーン車を検査する上で重要なチェックポイントとして、本体取付け部のフレームの状態を確認することを忘れずに見ること。

※誤った使用などにより、フレームが下に沈むように歪んでいる場合があるので注意が必要。また、補強フレームがあるので、メインフレームと補強フレームを見間違わないよう気を付けること。

(2)箱物車両(アルミバン、アルミウイング、冷蔵冷凍 etc)



- ①外板パネル、荷室内の瑕疵をチェックする。
- ②特に荷箱の背(高さ)が高い為に、荷箱の角(先端)がぶつけられていることが多々あるので要注意!



- ①パワーゲート(P/G)が装着されている場合は、実際にP/Gを作動させ、不具合がないかを確認する



- ①冷蔵冷凍に関して、蓄冷式の場合は、スタンバイコードが必要になるので必ず有無を確認する



- ①荷箱内には積載物を固定する為のレールが取り付けられたものがあり、この場合には記載をする。  
 ※左右の壁にある ⇒ 「ラッシングレール」  
 ※床面にある ⇒ 「ジョルダー」

(3)ダンプ車両



一点 ダンプ

三点 ダンプ



- ・ダンプの床板(ベッセル)にヘコミが沢山あったり、大きく窪んでいる場合、ネタが潰れてたり、曲がったりするしている場合が大きいので注意が必要。



- ①ダンプのキャッチ部付近及び支点付近でフレームが歪んだりダメージを修正することが多いので、特にこの付近は注意深くチェックを行うことが重要
- ②大型ダンプ車はR足廻りのバンブラバー(フレームに取り付けられている)部が曲がっていることが多いので、下廻り確認時に注意が必要
- ③土砂等を降ろすさいに、荷台を昇降させる部分であるホイストシリンダーについてもオイル洩れ等があるので確認を行う

## 5.車体ナンバー

車体ナンバーの確認には、全打刻文字が確認できる状態にあることが必要である。



※不鮮明や一文字だけ確認出来ない場合等では出品は不可となるので確認時要注意

この場合、陸運局にて「職権打刻」を行い新たな車体ナンバーにて対処を行う

車体ナンバーの偽造打刻



左写真【写真9】のように、車体ナンバーを偽造等行った車両等もあるので、確認のさいに打刻の確認だけでなく、その周辺様子(状態)も入念にチェックを行う必要がある。

【写真9】

### (1)車体ナンバーとコーションプレート

トラック車両を検査する場合は、必ずキャブ側にある「コーションプレート」の車体ナンバーとフレームに打刻された車体ナンバーが一致していることを確認する必要がある。



打刻ナンバーが一致しない場合⇒

想定⇒ キャブ or メインフレームの載せ換え

↓  
車両の車検証にて、車検証記載の車体ナンバーを確認し、どちらに違いがあるか確認をする

↓  
**A: キャブが違う場合**

キャブ交換

---> 走行メーター距離の確認を行うこと

→ 実走行

→ メーター改ざん

最後に、車両から少し離れた位置で、車両の外装および、外観の雰囲気等を全体的に再度確認する